

令和5年3月28日
山梨県民信用組合

第25回経営諮問会議の概要について

当組合は、理事会の諮問機関として、外部有識者から構成される「経営諮問会議（アドバイザーボード）」を設置しております。本会議は、外部有識者より経営全般について助言・提言をいただき、これを経営に反映させることにより、経営の客観性・透明性を確保し、コーポレート・ガバナンスを強化することを目的としております。

過日、「第25回経営諮問会議」を開催いたしましたので、その概要につきまして、下記のとおりご報告させていただきます。

なお、次回会議は、令和4年度決算状況を踏まえて、本年7月頃に開催する予定にしております。

記

1. 日 時

令和4年12月12日(月) 15:00～17:15

2. 場 所

山梨県民信用組合 本店

3. 出席者

加藤 隆博	公認会計士
手塚 伸	公益財団法人やまなし産業支援機構理事長
中村 己喜雄	山梨県商工会連合会会長
波木井 昇	山梨県立大学名誉教授
深澤 嘉彦	元金融機関役員

＜五十音順、敬称略＞

(山梨県民信用組合出席者)

南 邦男	理事長
井垣 繁人	専務理事
望月 久也	常勤理事
荻原 武彦	常勤理事
守屋 稔	常勤監事

4. 南理事長挨拶要旨

年末のお忙しい中、本会議に出席いただき、お礼申し上げる。

このあと、9月の仮決算について報告するが、ほぼ計画どおりに推移していると評価している。今期も計画通りの黒字決算を目指して全力で取り組んでいく。

現在、金融機関や顧客を取り巻く環境は、非常に厳しい状況が続いている。まず、我々の金融経済環境は、ますます厳しさを増しており、各金融機関も店舗統廃合や人員の適正化が既に

当たり前となっている。如何にして業務の効率化を図るか、また、顧客のニーズに応えるため、IT化・DX化に真剣に取り組んでおり、この動きは、来年、加速してくるものと考えている。

顧客を取り巻く状況は、総じてみれば、経済が回復傾向にあり、飲食・宿泊業も改善してきていると聞くが、実情は業種により、ますます格差が広がっており、売上げがコロナ前と比較し100%を超えた先もあれば、未だ半分にも回復していない先もある。さらに、同一業種間においても同様であり、業績の良い企業と良くない企業との格差が表面化している。

我々としては、まずは顧客をこまめに訪問して業況を具に把握し、信用組合ならではのきめ細かなオーダーメイド型の金融サービスを提供することが肝要であると考えている。

5. 当組合からの説明

当組合より、以下の内容について説明いたしました。

- ・令和4年9月期仮決算概況
- ・前回提言にかかる取組状況
- ・「経営強化計画」の取組状況

6. 意見交換要旨

・出席者の皆様からいただいたご意見ご提言等

- 職員の待遇改善に努め、職員の確保に努めて頂きたい。
- 今後も事業再構築を顧客と一緒に進めて頂きたい。
- モニタリングを行うなかで、経営支援を実践して頂きたい。
- 価格転嫁に係る問題への支援に取り組んで頂きたい。
- M&Aや事業承継について、積極的な提案に取り組んで頂きたい
- 「顧客の層別管理」を設定し、顧客の分布・動向を反映したデータで活動することが重要である。
- 層別顧客管理・推進の実効性を高めるために、インタビューを行いながら、当組合の「便益」と「独自性」を理解することが重要である。
- 経営計画に「組織文化の向上」を加えることが必要である。
- 「組織風土」および「組織文化」の強化に取り組んで頂きたい。
- 職員の意識調査について、より詳細な分析が必要である。
- 中長期的な地域経済発展のため、今まで以上に製造業の新規開業に向け、取り組みを強化して頂きたい。

以 上